

(参考資料5：HP公開様式)

(提出必要；電子ファイル)

政務活動費の調査研究に係る海外調査、宿泊を伴う県外調査の概要

1 題目：令和会県外調査 卯月政人、鷹野一雄（他同伴議員、誠心会2名、公明党1名）

2 調査報告概要

調査者 会派名等	[会派名、調査者全員の氏名] 令和会 卯月政人、鷹野一雄 (他 自民党誠心会 水岸富美男議員、杉原清仁議員 公明党 佐野弘仁議員)
調査内容	1 調査目的 ①山梨県は森林面積が広い森林県であり、昨今地球規模でも課題となっているCO2削減の必要性、持続可能な社会構築のため、森林バイオマス事業にどのように取り組んでいくべきか、その方向性を見出す。 ②少子化、高齢化時代に突入し、若者が街づくりに参加していくことは今後の自治体運営にも大いに課題であり、合わせて高齢者への課題である認知症介護者が減少する2030年問題へ向け、認知症対策についての先進事例を調査し、今後どのように取り組んでいくべきか、その方向性を見出す。 ③農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動であるグリーンツーリズムは、本県でも大月市で開始されているが先進的な取組みを調査し、今後中山間地域が多い本県が、どのように取り組んでいくべきか、その方向性を見出す。 ④山梨県は内陸県であるが、昨今問題となっているプラスチックごみの海洋汚染は内陸からの取組みも課題となってきている。今後どのように取り組んでいくべきか、その方向性を見出す。  2 調査テーマ ①森林バイオマス地域供給体制づくり支援事業について。 ②認知症支援の取組みについて、スマホゲームを通じたまちづくりワークショップについて。 ③リュウキンカの郷、人吉球磨グリーンツーリズムについて ④かごしま環境未来館、環境保全活動の取組みについて。

3 調査期間

令和元年 10 月 23 日～令和元年 10 月 25 日 (2泊3日)

4 調査地 [海外→国名・都市名]・[国内→都道府県名・市町村名]

①宮崎県宮崎市

②宮崎県小林市

③熊本県あさぎり町

④鹿児島県鹿児島市

5 その他

特に無

3 調査テーマ毎の調査項目と選定理由

<p>①森林バイオマス地域供給体制づくり支援事業について</p>	<p>[調査項目] 森林バイオマス地域供給体制づくり支援事業</p> <p>[選定理由] 「やまなし森林・林業振興ビジョン」の再生可能エネルギー地用促進の参考のため選定した。</p> <p>[調査結果の活用方針] 山梨県では「やまなしエネルギービジョン」(平成28年3月)の策定により、木質バイオマスの利活用の取組方針、施策、利用目標を制定している。先進的な取組みを調査し、県下での木質バイオマス発電事業拡大への参考としたい。</p>
<p>[調査テーマ] ②認知症支援の取組みについて。スマホゲームを通したまちづくりワークショップについて</p>	<p>[調査項目] 微視的ではあるが、地方自治体の高齢者対策としての認知症施策の全国先進例を捉えた調査。合わせて同自治体では若者定住促進としての、若者世代の行政参画を推進している政策の調査。</p> <p>[選定理由] 認知症対策の一環として若者と行政のコラボの事業が遂行されている街づくりの活性化を参考にしたいため選定した。</p> <p>[調査結果の活用方針] 高齢化、少子化の両端で実施されている先進性は、本県や本県の市町村に於いても大きな有益性があり、同行した他会派議員とも連携、協議して、本会議、委員会等での政策提言項目として活用したい。</p>

<p>【調査テーマ】</p> <p>③リュウキンカの郷、人吉球磨グリーンツーリズムについて</p>	<p>【調査項目】</p> <p>ボランティアでの地域の高齢者見守り、共助組織からスタートし、街の活性化と高齢者雇用までを実現したこと。平成 29 年からは農水省農産漁村振興交付金活用に拠り、農泊推進事業着手までの経緯と結果について。</p> <p>【選定理由】</p> <p>行政でなく住民自らが率先して先進的な取り組みを実施している先進性があるため選定した。</p> <p>【調査結果の活用方針】</p> <p>本県産業に於いても骨格を成す農業を利用し、農業体験と宿泊を取入れた新たな取り組みについては、同行した他会派議員とも連携、協議して、本会議、委員会等での政策提言項目として活用したい。</p>
<p>【調査テーマ】</p> <p>④かごしま環境未来館、環境保全活動の取り組みについて</p>	<p>【調査項目】</p> <p>昨今問題となっているプラスチックごみの海洋汚染問題と共に、内陸県からの上流側取り組みとして、河川のマイクロプラスチック汚染も課題となってきた。先ず現状の日本近海の汚染状況と、先進的な環境教育の実施状況と、プラスチックごみ削減の取り組みについて調査。</p> <p>【選定理由】</p> <p>利用者数が毎年増えている指定管理者の事業努力について調査したかったため選定した。</p> <p>【調査結果の活用方針】</p> <p>山梨県内大学を中心に主要河川でのマイクロプラスチック汚染調査と研究が進んでいる。ローカルマニフェストとしてマイクロプラスチック対策を掲げたことから、政策提言のための調査として本会議、委員会等の政策提言のための調査項目としたい。また本報告書に於いての 4 テーマ全ては、地方自治法 100 条第 14 項に基づく、議会活動に資する調査研究での活用としていく。</p>

4 調査項目に係る調査都市・施設・担当者等の選定

調査項目	都市（市町村）名・施設名・担当者名及び選定理由
<p>①森林バイオマス地域供給体制づくり支援事業について。</p> <p>1. 木質バイオマス活用型再造林支援</p> <p>2. 風倒等被害木活用型再造林支援</p>	<p>[都市（市町村）名・施設名・担当者名]</p> <p>宮崎県宮崎市橘通り東2・10・1 宮崎県庁 宮崎県議会事務局政策調査課中村様、菊池様 宮崎県環境森林部田崎様、松永様、世見様</p> <p>[選定理由]</p> <p>持続可能な社会構築のため、森林バイオマス事業にどのように取り組んでいくべきか、本県での取り組みの参考とするため選定した。</p>
<p>②認知症支援の取組みについて。スマホゲームを通したまちづくりワークショップについて。</p> <p>1. 認知症支援の取組みについて。（長寿介護課）</p> <p>2. スマホゲームを通じたまちづくりワークショップについて。（地方創生課）</p>	<p>[都市（市町村）名・施設名・担当者名]</p> <p>宮崎県小林市細野300番 小林市役所 小林市議会事務局坂下様、西様 小林市健康福祉部大角様、橋口様 小林市地域包括支援センター中本様 のじり地域包括支援センター八重尾様 総合政策学部地方創生課プロモーショングループ深見様</p> <p>[選定理由]</p> <p>高齢化層対策、若年層対策の同時両極の2つの政策調査ができることから選定した。</p>
<p>③リュウキンカの郷、人吉球磨グリーンツーリズムについて</p> <p>1. 熊本人吉・球磨の実践からの検証、農泊で繋げる、人・まち・くらし</p>	<p>[都市（市町村）名・施設名・担当者名]</p> <p>熊本県あさぎり町深田西879・1 食・農・人総合研究所リュウキンカの郷 本田様、<span style="background-color: black; color: black;">          </span>様、<span style="background-color: black; color: black;">          </span>様 農林水産省、農林水産研究所 神山様、佐藤様</p> <p>[選定理由]</p> <p>滞在型の余暇活動を活用して、国の補助金を活用したグリーンツーリズム実施の調査のため選定した。</p>

<p>④かごしま環境未来館、環境保全活動の取組みについて</p> <p>1. 座学。かごしま環境未来館での学習内容</p> <p>2. 運営の基本方針、管理体制等</p> <p>3. 展示視察・説明。展示の構成説明</p>	<p>[都市（市町村）名・施設名・担当者名]</p> <p>鹿児島県鹿児島市城西2・1・5 かごしま環境未来館 公益財団法人かごしま環境未来財団様</p> <p>[選定理由]</p> <p>施設内を学べる場となっていること。指定管理者の事業努力について調査したかったため。</p>
---	--

## 5 調査内容

○調査テーマ：(森林環境、高齢層認知症、若年層定住、グリーンツーリズム、  
海洋環境プラスチックごみ、マイクロプラスチック問題)

調査項目	①森林バイオマス地域供給体制づくり支援事業について。 1. 木質バイオマス活用型再造林支援 2. 風倒等被害木活用型再造林支援		
調査都市等	宮崎県宮崎市橋通り東 2・10-1	調査日	10月23日
調査結果概要	宮崎県は平成3年以来、28年間連続してスギの生産量は全国一位であり、製材品出荷量も973千 $m^3$ で全国2位と言う林業王国である。そのなかで持続可能な地域づくりを目指す森林バイオマス地域供給体制づくり支援事業として、収益を再造林に活用している。このため県では、事業促進のために、生産、造林業の地域協議会に対し、林地残材の収集運搬経費、風倒等の被害木搬出運搬の取組みを支援している。先の事業内容としての補助率は定額で、事業効果も再造林の促進、中山間地域の産業振興、着実な再造林により林地の荒廃の防止に寄与している。		

調査項目	②認知症支援の取組みについて。スマホゲームを通じたまちづくりワークショップについて。 1. 認知症支援の取組みについて。(長寿介護課) 2. スマホゲームを通じたまちづくりワークショップについて。(地方創生課)		
調査都市等	宮崎県小林市細野 300番	調査日	10月24日
調査結果概要	始めに認知症支援の取組みについてであるが、全市4万6千人余の人口の内、12,212人が認知症サポーターで登録されていることは驚きである。市内小中学校全校でもサポーターの取組みを実施する他、看護学校、郵便局、薬局、地域では地区、JA、老人クラブまでと、人口比率に占める割合は非常に高い。細かな取組みも多く、認知症の方と一緒に農福連携での収穫祭、「貯筋ステーション」としてフレイル予防講座や認知症研修会が頻繁に実施されている。介護福祉士の資格を持っていなくても、研修を受ければヘルパーとして生活援助に限定して担い手として従事できるようになっていることも先進的である。 全国的にも有名な方言がフランス語?と「田舎女子校生」PRビデオが全国的にも有名になった宮崎県小林市であるが、最先端な取組みとし		

	<p>てエレクトロニック・アーツ社とコラボし、スマホ向けゲーム「シムシティ ビルドイット」を通した高校生とのまちづくりワークショップを進める「シムシティ課」が設立されている。ゲームを通し、まちづくりを考えるというこれまでにあまり例を見ない地方創生の取り組みにより、若い世代に自分が住むまちをもう一度見直し、まちづくりに興味を持つ次代の人材が育っている。平成30年には5回に渡り「まちづくり検討会」が開催されている。</p>
--	---

調査項目	<p>③リュウキンカの郷、人吉球磨グリーンツーリズムについて</p> <p>1. 熊本人吉・球磨の実践からの検証、農泊で繋げる人・まち・暮らし</p>		
調査都市等	熊本県あさぎり町深田西 879・1	調査日	10月24日
調査結果概要	<p>山梨の自然農村元風景に通じ活かすことができる熊本県人吉球磨グリーンツーリズムについて。地域づくりからスタートしたコミュニティビジネスの30年、98年から60～70歳代の主婦を中心に雇用し女性活躍時代、高齢者雇用の先駆けであった。平成18年には10市町村連携型による人吉球磨ツーリズム推進協議会が設立された。地域住民にとっても、都市住民との交流により地域の価値を再認識してもらうことで、いきがいにつなげ、地域の活性化を推進している。協議会の委員数は20人（うち女性4人）。</p>		

調査項目	<p>④かごしま環境未来館、環境保全活動の取組みについて。</p> <p>1. 座学。かごしま環境未来館での学習内容</p> <p>2. 運営の基本方針、管理体制等</p> <p>3. 展示視察・説明。展示の構成説明</p>		
調査都市等	鹿児島県鹿児島市城西 2・1・5	調査日	10月25日
調査結果概要	<p>視察最終日、かごしま環境未来館での、「私達がしてきたこと、私達がすべきこと」環境保全活動の取組について学ぶ。</p> <p>基礎自治体市町村での検査実施には、県、国による基準が必要となる。また持続可能な環境影響調査を実施していくための対策には住民協働でのプラスチックごみそのものの削減も必要である。H18年から直営で財団法人として運営、H30年来館者数は126,208人とH20からの10年で毎年増加し続けている。</p>		



○各参加者の所感及び調査結果の活用方針

テーマ ①森林バイオマス地域供給体制づくり支援事業について

議員氏名	所感及び活用の考え方
卯月政人	<p>県土面積の80%を森林がしめる山梨県として、山林に残された林地残材を活用することは森林資源全体の活用につながるため大変重要。製品として利用できない、小径木や曲がり木樹皮等の木質バイオマスを有効な熱源として利用する環境作りが必要。産業用のエネルギーとして活用する事で循環型社会の構築につながる。</p> <p>一般家庭でも、若い年齢層において自然志向の高まりから、薪・ペレットストーブへの感心が高まっている。</p> <p>森林県という特色を活かし様々な分野で活用できる施策を検討する。産業として成り立つことで、森林整備や担い手不足という課題解決につながる。</p>
鷹野一雄	<p>伐採したまま山に残された丸太や枝葉、製造工場などから出る樹皮や端材等の未利用の木質バイオマスを山梨県でも地球にやさしいエネルギー源として利用する施策が必要。</p> <p>また、施設園芸の持続的な発展を図るためには、施設園芸ハウスの暖房として木質バイオマスから作成されたペレット利用促進する。</p> <p>それには、林地残材の安定供給に向けて未利用間伐材の中間土場集積等の取組による集積運搬コストの削減など、流通の効率化に取組、林地残材のなお一層の利用拡大に努める施策の取組みに努める。</p> <p>山梨も県南は杉、桧、北部のカラマツなど広大な森林面積を占める森林県であり、県政策の更なる推進と共に林業関係者からの要望を頂いており、林業担い手不足の確保、活性化にも資する案件調査としてできた。また、県有林地から発生する広葉樹木の利活用を積極的に研究し、隣県からも需要がある薪としての活用も視野に入れた施策をと考える。県有林を民間に貸し出している林地の整備にも活用できるのではないかと考える。</p> <p>本調査の活用としては再生林の促進システムを「やまなしエネルギービジョン」への反映ができればと考える。</p>

○各参加者の所感及び調査結果の活用方針

テーマ ②認知症支援の取組みについて。スマホゲームを通したまちづくりワークショップについて

議員氏名	所感及び活用の考え方
卯月政人	<p>増加していると言われている認知症にならないための取組みとして「貯筋通帳」を発行して、認知症になる手前のいわゆるフレイル状態の高齢者が楽しくがんばれる施策は大変参考になる施策であり、親しみやすいネーミングも良い。</p> <p>認知症サポーターの活動について実績を評価しポイントを付与し、ポイントに交換して商品券を発行するという取組みは斬新でサポーターにとって大変励みになるものである。</p> <p>自らの街をデザインするというゲームだが、市とゲーム開発会社、地元の高校で実際にワークショップを開催して街づくりに参加するという意識を持つことで県外の大学に進学した後も自分の出身地に愛着を持ち続ける事につながる。自治体職員も同様である。</p> <p>何より、古くから慣れ親しまれてきたゲーム「シムシティ」の舞台として選ばれた事が大きな事である。</p>
鷹野一雄	<p>協働を柱に、地域の役割を明確にし、地域の見守りを重視した施策の展開を視た。今後大きく増加するとされる認知症を身に捉える取組として市民を巻き込む展開の切り口として「認知症サポーター」を取り入れた事に感銘し施策の展開の参考とする。また、少しでも認知症にならない為の元気になる「貯筋通帳」を発行しフレイル状態の高齢者の励みとする取組も施策の参考となる。</p> <p>また、「認知症サポーター」の励みとなる様、サポーターが行ったサポーター活動を実績評価した上でポイントを付与し、ポイント転換で商品券（地域限定）を交付する施策も参考となる。</p> <p>また、産官学連携を实践した取組みである。市とスマホ「シムシティビルドイット」と秀峰高校、三者でまちづくりワークショップを開催し、自らまちづくりに参画、自分のまちへの愛着が育ち県外大学に進学した後も、故郷への愛着がうまれ良い流れが創られるものだと考えられる。本調査の活用としては本県でもPRムービー、プロモーション作成等スマホを活用し行政参加型の施策構築ができればと考える。</p>

○各参加者の所感及び調査結果の活用方針

テーマ ③リュウキンカの郷、人吉球磨グリーンツーリズムについて

議員氏名	所感及び活用の考え方
卯月政人	<p>リーダー的な人物が中心となって、地域全体をまとめている。</p> <p>地元の農産物を使った郷土料理を農家レストランや、JRが運行する観光列車の車内で、弁当として提供する取り組みを行っている。</p> <p>農家民宿などの宿泊施設とも連携し、滞在型で持続可能な取り組みとするため、組織を法人化するなどの農泊の体制づくりは大変参考となった。</p> <p>農水省の職員もモデルケースとして同施設に宿泊し視察に訪れていた。</p> <p>山梨県も多く存在する古民家を利活用しての農泊は、観光施策、地域活性化事業の方向性として有効である。</p> <p>農泊が観光産業として成り立つという事を学べた。</p>
鷹野一雄	<p>都市と農山漁村の共生・対流とは、都市と農山漁村を行き交う新たなライフスタイルを広め、都市と農山漁村それぞれに住む人々がお互いの地域の魅力を分かち合い、「人、もの、情報」の行き来を活発にする取組。農山漁村滞在型旅行である「農泊」を中心に、グリーン・ツーリズム、農山漁村における定住・半定住等も含む広い概念であり、都市と農山漁村を双方向で行き交う新たなライフスタイルの実現を目指す良い事例であった。</p> <p>それぞれの地域で人のため、地域を良くするためには、オピニオンリーダーとして一人でも多くの仲間と共に真剣に努力する想いと言葉と行動により進めてきた好事例を視察させて頂いた。</p> <p>本調査の活用としては、山梨県の桃を中心とした果樹の「農」を活かし、中山間にある古民家を利活用しての農泊は、観光施策、地域活性化事業の方向性として必要だと考える。</p> <p>農泊の目標とは、「農山漁村において、農泊が自立的なビジネスとして継続されること」であり、そのためには課題の分析と併せてその解決を図るための方策を示していくことが必要である。</p>

○各参加者の所感及び調査結果の活用方針

テーマ ④かごしま環境未来館、環境保全活動の取組みについて

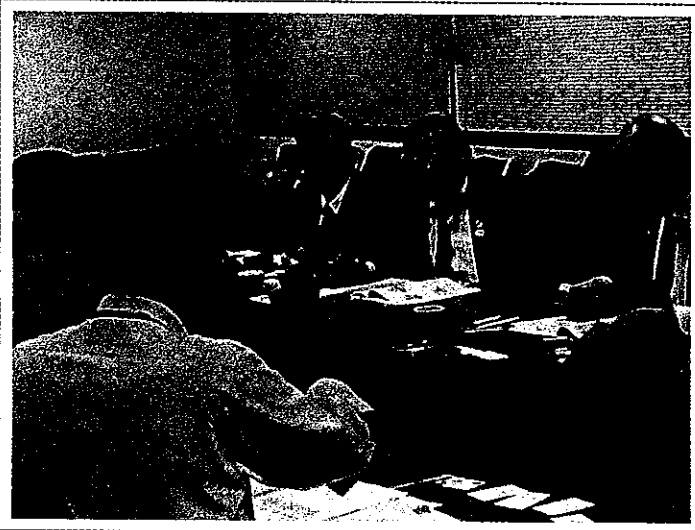
議員氏名	所感及び活用の考え方
卯月政人	<p>海岸に流れ着いたゴミ等を見て考えさせられる展示方法である。</p> <p>床にも世界の環境破壊の怖さを考えさせられる画像等が敷き詰められていた。</p> <p>基礎自治体である市が環境に特化した施設の運営をしている。</p> <p>職員のやる気が感じられた。</p> <p>このような取組みが認められ、地域や企業を巻き込んだ美化活動が活発に行われている。</p> <p>自分たちの街を美しく保つ意識の醸成が図られている。</p> <p>問題となっているコロナウイルスも環境破壊により住み処を追われた動物により仲介されたと言われている。</p> <p>当日も多く的小学生が勉強に訪れていたが、環境教育に有効であると思う。本県でも取り入れることが必要である。</p>
鷹野一雄	<p>環境についての意識を高め、楽しく分かりやすく学習するための教材として、「気づき」「知る」「学び」「実行する」を踏まえた展示を行い、生活者・事業者が環境について関心や理解を深め、日常生活や事業活動において、自発的に環境保全活動を実施するとともに、その活動の輪を広げていくことを促進する意識付けが必要である。</p> <p>現在、マイクロプラスチックについては、水質汚濁防止法で規定する県が作成する公共用水域及び地下水における水質測定計画の対象外となっていることから、調査現況を踏まえ、検査を今後実施する方向性で、調査の地点や方法などの基準を模索するための一助として、視察結果を活用していきたいと考える。</p> <p>また、昨今の新型コロナウイルスなど自然界の破壊によるものとされており、野生生物たちが、すみかや餌を失い、生態系を乱されて人の生活圏に出没するようになり、それまでは明確だった人と野生動物との境界があいまいになり、野生生物が人間の近くにいる動物などを仲介して、新たなウイルスを拡散させることも念頭に政策に反映する。</p>

6 調査状況 (写真)

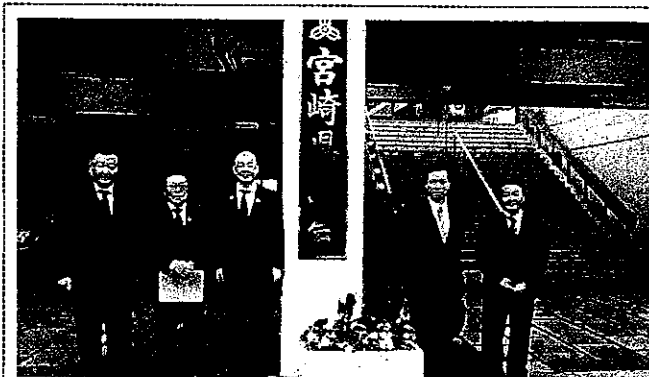
○ 令和元年10月23日 調査先 (宮崎県庁 宮崎県バイオマス研修)



宮崎県庁職員よりの説明風景写真



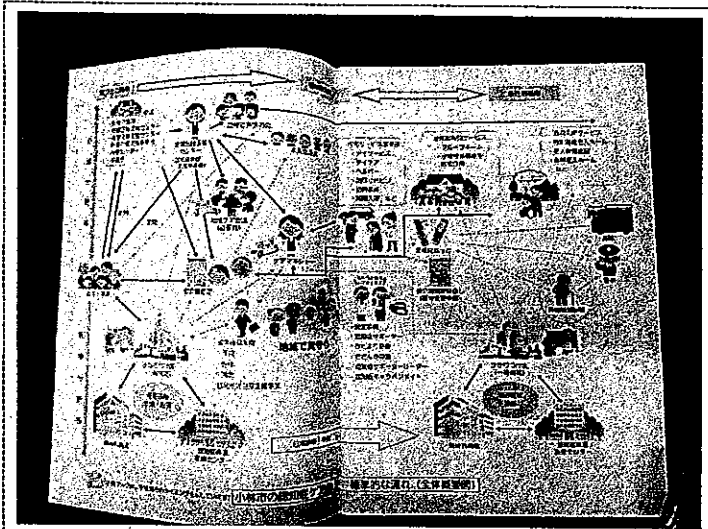
宮崎県庁職員に質疑風景写真



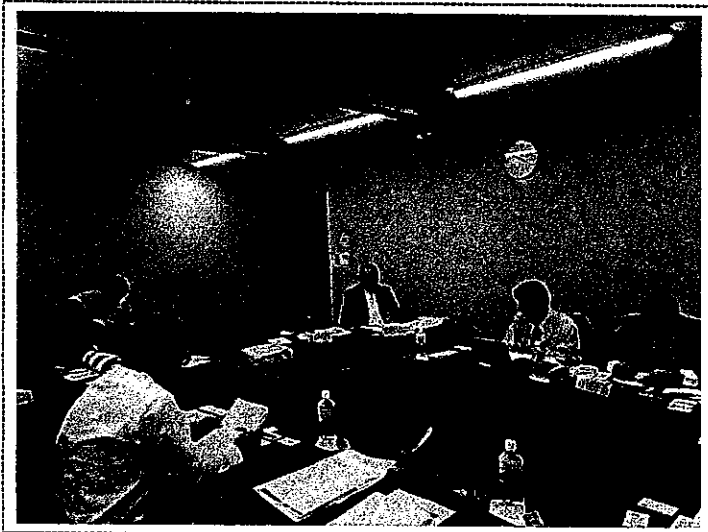
宮崎県議会前にて集合写真

6 調査状況 (写真)

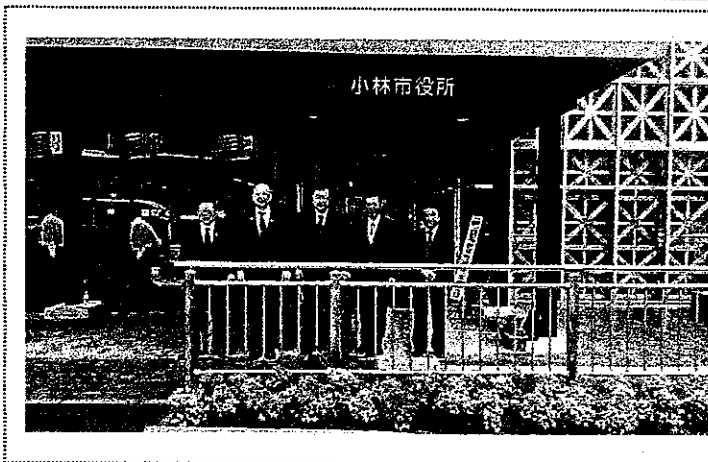
- 令和元年10月24日 調査先 (小林市役所 認知症支援、シムシティーを利用したまちづくり)



小林市の認知症ケア全体的な標準の流れ図  
此れを基に説明を頂く



小林市担当部署から説明を



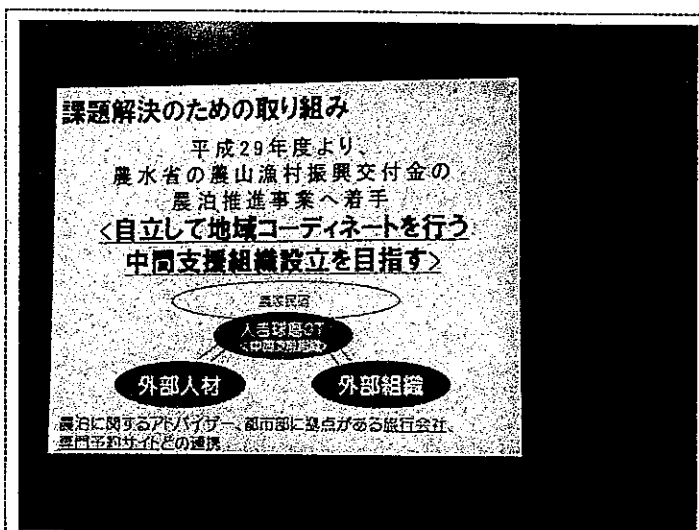
小林市役所前にて  
集合写真

6 調査状況 (写真)

○ 令和元年10月24日 調査先 (リュウキンカの郷)



本田節代表理事より実践を通じた  
農泊についての考え方  
今後の在り方  
農泊で繋げるひと・まち・暮らし  
について説明



\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

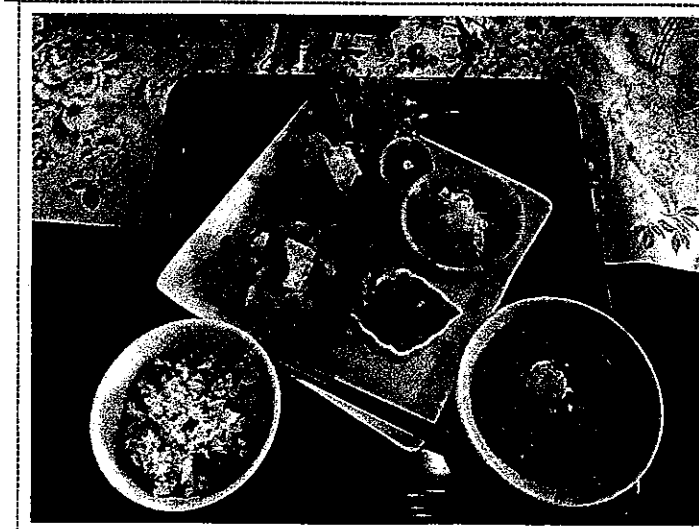
\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_



農泊をした方々に出される食事を頂く。  
地産地消の地元でとれた食材を使った料理。

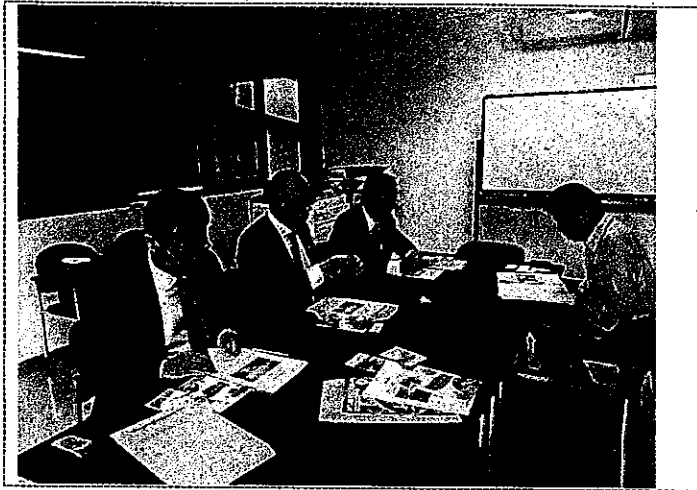


リュウキンカの郷前にて集合写真



6 調査状況 (写真)

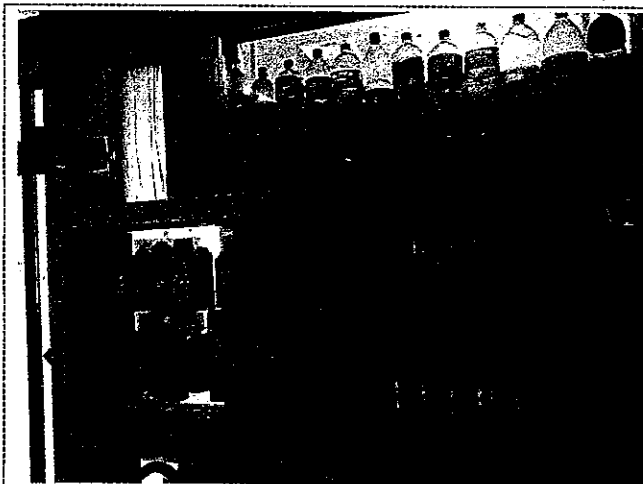
○ 令和元年10月25日 調査先 (かごしま環境未来館)



り  
施設の概要説明を頂く



かごしま環境未来館に校外学習の  
小学生



施設内展示されている  
海岸に流れ着いたプラスチックごみ等



---

施設内展示されている

---

世界各国の悲惨な環境状況を床面にス  
ライド写真を埋め込み

---

未来環境の在り方を訴える

---